

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2014年4月28日発行 第37号

居場所づくり勉強会 第28弾！ ～京都府条例を活用しよう！ 障害のある女性編～

あなたは自分らしく、安心して暮らせていますか？

2014年3月11日、「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」が成立しました。この条例では、共生社会の実現のために、障害を理由とした不利益取り扱いの禁止や、社会的障壁の除去のための合理的配慮の実施、相談窓口の設置などが定められています。

とくに素晴らしいのは、障害のある女性への配慮や、障害者に不快感を与える言動について相談できると書かれたことです。京都の当事者が何度も訴え、その大切さを理解してもらい、全国で初めて京都で盛り込まれることになりました。

とはいえ、条例って難しそうですね。堅苦しい言葉だし、自分にどんな関係があるのかよくわからない。いったい何が変わるの？

今回の勉強会では、まずみなさんがよく知る数人の女性たち——身近な「わたし」からスタートします。なぜ「わたし」が条例に「障害のある女性のしんどさ」を盛り込もうとしたのか。そこにどんな背景や思いがあるのか。あるいは、障害者になる前の「わたし」となった後の「わたし」で、考え方や社会の見え方がどのように変わったのか。そして、「わたしたち」は条例に何を期待し、これからどんな社会をめざしていくのか。

まず、わたしのこと、あなたのことから考えてみましょう！

どこでもない、ここ京都のことです。いっしょに話し合うこと、そこから始まります！！

第1部 京都府条例を活用しよう！ 障害のある女性編

村田恵子さん（京都頸髄損傷者連絡会、元・京都府条例検討委員）

松波めぐみさん（世界人権問題研究センター研究員）

第2部 意見交換・歓談

日 時：5月20日(火)14:00-16:00

場 所：日本自立生活センター事務所

担 当：香田



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL: 075-682-7950 E-mail: jcil-kyoto@jcil.jp URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

～東北に行ってきました！ 石巻・福島(郡山・田村)訪問報告(前編)～

3月7日(金)に、2月に訪問した東北被災地支援についての報告会を行いました。宮城の石巻、福島の郡山、田村市に訪問し、そこでお会いした方々のお話や見学したことなどを報告しました。スキマタイムズでも報告会で報告したことをいくつか書かせていただきたいと思います。(近藤麻友美・栄井希里)

◆宮城県石巻市◆

2月6日の昼過ぎに石巻に到着し、被災地障がい者センター石巻を訪問しました。そこでは代表の阿部俊介さん、石森さん、箕田さんとお会いし、震災当時と、今の状況のお話をお聞きしました。現在石巻では街づくりが進められているのですが、石巻のイオンの近くにJR新蛇田駅という駅が設置される計画があり、その新蛇田駅のバリアフリー化にむけて、運動をしていくということでした。

また、被災地障がい者センター石巻が企画する「によっきりフェスタ in みちのく」というイベントを、7月27日に開催する予定とのこと。地域に住む障害者の方々に参加してもらおうようなイベントにしたいと言われていました。

その後石巻市内を見学し、津波の被害のあった海辺近くに車で行きました。瓦礫は撤去されていたのですが、新しく建てられた建物は無く、ポツンポツンとある家を除いて、ほとんどが更地になっていました。

そのあと、JR蛇田駅を見学しました。こちらは全くバリアフリーでなく、全く改善されない状態とのことでした。



日和山にて、被災地障がい者センター石巻のメンバーと

◆福島県郡山市◆

2月7日、郡山の被災地障がい者センターふくしまに訪問しました。こちらでは代表の白石さんより、震災からこれまで、白石さんや障がい者センターがどのような活動をしてきたのかをお聞きしました。現在は、孤立しがちな被災した障がいのある人たちの交流の場を設け、物づくりなどの活動もしているとのことでした。



被災地障がい者センターふくしまの白石さんと

午後からは、防災研究会という福島県のCILの方たちが集まる定例会議に参加しました。この会議では、5月ごろに行政に提出する「防災に関する提言集」をまとめるために、震災があった時にどうすればいいか、などの話し合いを行っていました。京都でも考えていくべき部分でもあり、ためになる会議に参加できました。

◆福島県田村市◆

2月8日、田村市の自立生活センター〈福祉とまちづくりの会〉に訪問しました。こちらでも震災直後からの話しをお聞きしました。田村市は原発から40キロ圏内にあり震災のあと、原発から離れるために、車で新潟の新発田市に避難されていました。避難所生活について、ある脳性まひの方のお話しでは、体育館で1週間車いすに座りっぱなしの状態、水分を控えたりトイレを我慢したりして過ごしていたとのことでした。その方は利尿剤を飲まなければいけないような方で、トイレを我慢するあまり、足に水が溜まり、40センチも膨れ上がってしまったそうです。股関節の痛みがものすごく、それでも車いすに座りっぱなしだったとのことでした。大体の障がい者がそんな感じだと、生きること、食べること、出すことも我慢しなければいけないのかと、涙ながらに話されていました。



雪の東北を走りました

その後、田村市民ネットワークの石田さんに案内してもらい、原発から30キロ圏内にある避難地域に指定されている無人の村、葛尾村に車で巡回し見学しました。除染作業は進められているとのことでしたが、汚染された土は撤去する場所がなく、道の脇に袋に詰められた状態で置いてありました。その土も放射能を出し続けているとのことでした。通りがかりに見た葛尾村に設置されている放射線測定器では、国の基準である0.23マイクロシーベルトをわずかに下回る0.20マイクロシーベルトが表示されていましたが、その測定器の周りだけをきれいに除染しているらしく、少し離れたところを測定するとすぐに1マイクロシーベルトを超えると言われていました。

●被災地を訪問したメンバーの感想●

☆段原克彦

2011年の視察から、JCILから東北に行かせてもらうのは今回で4回目になります。4度の訪問や関西・京都での交流、個人的な関わりの中で、そして今回の訪問で、とぎれとぎれではありますが、切れてしまわないようにと自分の意図を繋いできたようにも思います。JCILのみんなで紡いできた関わりをこれからもつなげていける様に、と思う今回の訪問でした。

訪問を支えてくれた皆さま、本当にありがとうございました。

☆辻本美貴

東北には以前から行きたいと思っていたので、今回は訪問する機会を与えて下さりありがとうございました。報告会では現地で聞いてきたこと、見たことをそのまま発表させていただきました。そして次、私たちはどうするのかというところまでは今回の報告会では時間の関係上、話し合える時間がなかったのですが、またそれぞれが感じたことなどを持ち合い個人として団体として今後検討していけたらと思います。



次号につづく→

こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？
ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

日時：5月22日(木)

18:15-19:30 (OPEN18:00)

場所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料

*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。



お米を蒸して



よくつぶして



息を合わせて



ペッタン



ペッタン



ペッタンコ



ペッタン



ペッタン



ペッタンコ



まるめて



まるめて



いただきます～す！

